

平成25年1月道場完成 子どもを育てる、 大人も楽しむ 夢いっぱいの 道場にしたい

直心館鈴木道場 全会員9名のスタート

小田原は神奈川県南西部に位置しています。東に大磯丘陵、西に霊峰富士・箱根外輪山、北に丹沢山地を望み、南は相模湾に面した大変自然が豊かな土地です。古くから城下町として栄えてきました。

剣道はとても盛んで、小田原剣道連盟の毎月の稽古会では常に50名以上の剣士が集まり、小学校低学年の子どもから70歳代の先生方まで一緒になって、気迫のこもった稽古をしています。また、八段の内田英之先生をはじめ多くの高段の先生方が、後進を育てるべく指導してくださっています。

少年剣道に目を向けてみると、子ども

たちが多くのスポーツを取捨選択できてる中で、残念ながらどの剣友会も少しずつ子どもが減ってきています。中体連を見ても、私が中学生だった当時と比べて大幅に人数が減っています。

学校によっては団体戦のメンバーが組めないところさえあります。そうした様子を見ていて「この状況を何とかしなくてはいけない」「剣道の子どもたちを増やすために、自分にできることはいらないだろうか」と考え、道場創設の決心をしました。

そして来る平成25年1月6日、小田原市中村原に「直心館鈴木道場」を開館しました。館長の鈴木直人、鈴木一、鈴木純也、藤井伸恭の3名の指導部員、2名の一般会員、3名の初心者、全体で9名という体制でスタートしま

した。

「道場を建てる」という夢は、実は幼い時から抱いていました。私は男三兄弟の末っ子ですが、小学生の時、母に出稽古に連れて行ってもらった車の中で、よく3人で「将来自分たちの道場をもてたらおもしろいね」と話をしていました。だから、自分が社会人になってからもずっと心のどこかにその思いをもっていました。

その漠然とした夢が、どんどん膨らんでいったのが、同学年で明治大学OBの加藤裕先生と始めた稽古会「若葉会」での成功経験でした。「地域の子どもたちを強くしよう」「自分たちが先生・先輩方に教えて頂いたことを、子どもたちに伝えていこう」そんな思いで始めた週1回の若葉会には、常時

鈴木直人

(直心館鈴木道場館長)

すずき・なおと／昭和58年神奈川県生まれ、29歳。豊川剣友会で剣道をはじめ、遠藤義幸先生・田中喜久雄先生に師事。小田原高校で山本茂先生に出会い、指導者の道を志す。神奈川大学を卒業後、地元小田原の小学校教諭になる。剣道五段



20名以上の仲間が稽古に来てくれます。

子どもたちを大切にしたい指導をしていけば、同じ思いをもった大人も集まるし、子どもたちも「教わりたいたい」と思っただけで稽古に来てくれるということを実感できました。また「あの稽古場に行けば良い稽古ができるよ」という口コミも広がって、色々な人が稽古に来てくれるようになりました。そうした手応えが、自分の思いをさらに強めていきました。

慌てず焦らず諦めず
これから勝負だ

そしてその夢の実現が決定的になったのが、「新居を構えようか」という話題が出た時、妻が「道場を建てる夢、叶えよう」と応援してくれたことです。妻は剣道をやったことがありません。剣道に対しての理解がなくても当然です。それなのに「あなたが大事に思っている剣道を、夢を、私も大事にしたい」と共感してくれました。そうした応援があつて、道場を建てることができました。妻には感謝してもしきれません。

ハウスメーカーの営業マンとの素晴らしい出会いもありました。どのハウスメーカーで「道場を建てる」と話をしてもらっても相手にしてもらえない中で、マッケンジーハウスの松本さんだけは真剣に話を聞いて、道場の床やスプリングなどについて詳しく調べ、



道場設立を果たし、これからますます盛り上がる直心館鈴木道場。元全日本中体連剣道部専門部長・野尻忠克先生に揮毫していただいた道場旗の前で記念写真

現実的で具体的な提案をしてくださいました。本当に感謝しています。

道場が完成し、道場開きを終えたころからが本当の勝負だと思っています。



道場開きにて、小田原剣道連盟・遠藤義幸会長が試し切りを披露。四方の邪気を祓い、道場の安全を祈願していただいた



道場開きの様子。20坪ほどの道場は元立ちが5～6人立てる広さ。床と壁は杉の無垢材を使用している

ここで私がやりたいことはたくさんあります。まず剣道の楽しさをできるだけ

け多くの人に伝えていきたいです。目標をもって稽古に取り組む素晴らしさ。目標を成し遂げた時の達成感。苦しい稽古を乗り越えた後の爽快感。老若男女誰とでも剣を交えられること。剣道には楽しさが山ほどあります。それを伝えたいです。

次に直心館を、剣道をしたい人が誰でも集まれるコミュニティにしたいです。何も気を遣わずに出稽古に来られる、剣道から離れている人がいつでも復帰できる、そんな居場所作りをしたいです。そして最後に、直心館の子どもたちを鍛え上げ、この小田原から全国で活躍するチームを作りたいです。

勝負にはとことんこだわっていきます。でも私は、結果は後からついてくるものだと考えています。礼儀を大切にし、相手を敬い、一生懸命剣道の修行に励む。道場や用具を大切に扱い、整理整頓を心がける。仲間との和を大切にします。

そうした、剣道家として当たり前のことを当たり前にできるようにしていけば、自ずと道は開けるはずです。また子どもたちに多くを求める以上、自分自身も指導者として自己の研鑽を積み、子どもたちと一緒に成長し続けていきたいと思っています。

慌てず、焦らず、諦めず。たとえ険しい道でも一步一步踏みしめながら進み、仲間と協力して直心館を素晴らしい道場にしていきます。